

### 3. 調査結果のとりまとめと分析

### 3. 調査結果のとりまとめと分析

#### 3. 1 注目すべき健康食品等に係るデータ

1章、2章の結果を踏まえて、分冊資料としていわゆる健康食品として使用されている種子植物・菌類のデータをとりまとめた。対象項目は次の通り。

##### (1) 対象種子植物・菌類の概要

- ・種子植物・菌類名（日本名、外国名、学名）、分類（科、属、種名）、原産地等
- ・有効とみられている成分名

##### (2) 現在の利用状況

- ・主な摂食形態、一日あたり摂取量（有効成分量換算）
- ・服用に当たって期待されている効能とその留意事項（特定の医薬品との同時服用禁忌等）
- ・用法等（各国の食習慣、本食品を利用している国、民族、調理方法、摂食方法、摂食量についての民間伝承、効能）
- ・同類生薬等

##### (3) その他

- ・副作用・健康被害事例と研究、各国での規制状況等
- ・有害な作用を引き起こしているとみられる成分名（構造式、化学式等）

### 3. 2 今後の課題

#### (1) 健康影響が問題となる可能性が考えられる種子植物・菌類の成分

調査の結果、健康食品の原材料として使用される種子植物・菌類（成分）については、一部の品目について健康への影響についてのデータが何例か報告されており、健康面の影響が生じる可能性について留意が必要であることが明らかになった。具体的には以下のようなケースで留意が必要と考えられた。

表3-1 健康影響が問題となる可能性が考えられる種子植物・菌類の成分

	No.	健康食品	健康被害の症状
種子植物	1	アマメシバ	閉塞性細気管支炎→販売禁止
	2	イチヨウ葉	腹痛、湿疹、下痢、呼吸困難、アレルギー症状
	3	西洋オトギリソウ(セントジョーンズワート)	医薬品の作用を低下
	4	エキナセア	過剰摂取による短期の発熱、吐き気、下痢
	5	ノコギリヤシ	過剰摂取による胃の不調や頭痛 果実の大量摂取による下痢
	6	コンフリー	肝障害
	7	ウマノスズクサ科 (アリストロキア酸含有)	重篤な腎臓障害
	8	センナ (マメ科)	使用規準や含有成分への認識不足による有害な作用
	9	サイリウム種皮 (オオバコ科)	アレルギー症状
	10	アロエベラ	下痢、腹痛
菌類	11	アガリクス*	薬剤性肝炎

\*) アガリクスの健康被害については、新聞からの情報であり、被害事例との因果関係が明白でない。

なお、カバは各国で肝障害の被害が報告されており、また、マオウは米国で不整脈・腎臓結石等の被害が報告されているが、日本では医薬品に区分されるため、表3-1には掲載しなかった。今回の調査では、他の品目については健康被害を示す明確な事例報告は見出されなかったものの、いわゆる健康食品として販売されているものは多種多様で、その摂取形態も多様であることから、必ずしも常に安全と断定することはできず、食品として利用する際には適切な摂取量を守ることが適切と考えられた。例えば、イケマでは健康食品としての被害は今回の文献検索では見出されなかったが、伝承では過度の摂取による死亡例もあるようである(分冊資料参照)。また、モロヘイヤでは、モロヘイヤの種子には強心配糖体が含まれていることは古くから知られており、食用葉の収穫時に果実を混入させないことが重要であるとされている。このような植物をいわゆる健康食品に利用す

る際には、適切な安全確認が必要である。

また、今回調査対象とした種子植物以外であっても、アリストロキア酸を含有するウマノスズクサ科の植物（中国産ボウイ、モッコウ等）も重篤な腎臓障害の事例が報告されている。したがって、健康に影響を与える可能性のある成分は上記以外にもあることに留意が必要である。

この他、実際の製品では単一の成分ではなく複数の有効成分が混合された製品が多いことから、このような混合物になった場合の成分間の相乗作用、拮抗作用が健康に与える影響についても、今後、留意が必要と考えられた。

また、ある有効成分が含まれていると称しながら実際には異なる原料が使用されている同名異物の問題についても留意が必要と考えられた。

菌類については、菌類の成分が直接健康に悪影響を与える可能性はさほどないものの、培養条件の違いによって成分が大きく変動すること、有効成分以外の混合物・不純物（有毒キノコの混入等）の可能性のあることを念頭に据えておく必要があると考えられた。このような問題は、いわゆる健康食品として製造されているものの一部では医薬品における GMP（Good Manufacturing Practice, 医薬品の製造管理及び品質管理規則）のような適正な製造基準についての考え方が浸透していないことが一因と考えられる。

今後は、上述した問題点に留意しながら、いわゆる健康食品の販売実態を含め、安全性情報を継続的にフォローするとともに、必要に応じて、安全性の評価結果を含めた消費者への情報提供とリスクコミュニケーションを行っていく必要があると思われる。

## （2）データ収集に関する課題

今回、いわゆる健康食品の成分として用いられている種子植物・菌類について、健康への影響が報告されているものを中心にデータを収集した。その結果、ある程度のデータは収集できたものの、依然としてデータが不足している項目やデータの信頼性が確認できない項目が見いだされた。これらの点については今後もデータの整備に努めていく必要がある。

「種子植物・菌類の成分等におけるヒト健康への影響に関するデータ」については全般的に次のような課題が残されていることも確認された。

- ・ 効能、健康への影響については、医学、有機化学、薬学、食品化学および東洋医学（漢方）、民俗医学に関わる様々なデータが散在しており、これらを総合的かつ科学的な見地から整理したデータベースが存在しない。

- ・ 特に上記の多様な情報を第三者的に評価した評価済みのデータは、一部のピアレビューされた学術誌を除けばほとんどなく、データの品質の保証がない。
- ・ 伝統的な使用方法、使用上の禁忌等の情報は民俗学など人文科学的な分野でも取り扱われているが、これらをまとめた適当な情報源は少ない。
- ・ 複数の成分を同時に摂取した場合の影響についてのデータが少ない。

いわゆる健康食品については多種多様な製品が販売されており、今後も安全性に関わるデータの収集と個別の成分等についてのデータベース化を行っていく必要があるが、そのためには現在散在しているこれらの情報の収集と吟味を進め、科学的に正確な情報を収録したデータベースの構築が必要である。

また、安全性についてのデータの妥当性（品質）の評価については、有識者などからの専門的なコメントを随時収集できるような体制を整備しておくことも必要と考えられた。

国内では既に（独）国立健康・栄養研究所において、このようなデータベースの構築が進められていることから、同研究所と連携していくことも考えられる。